

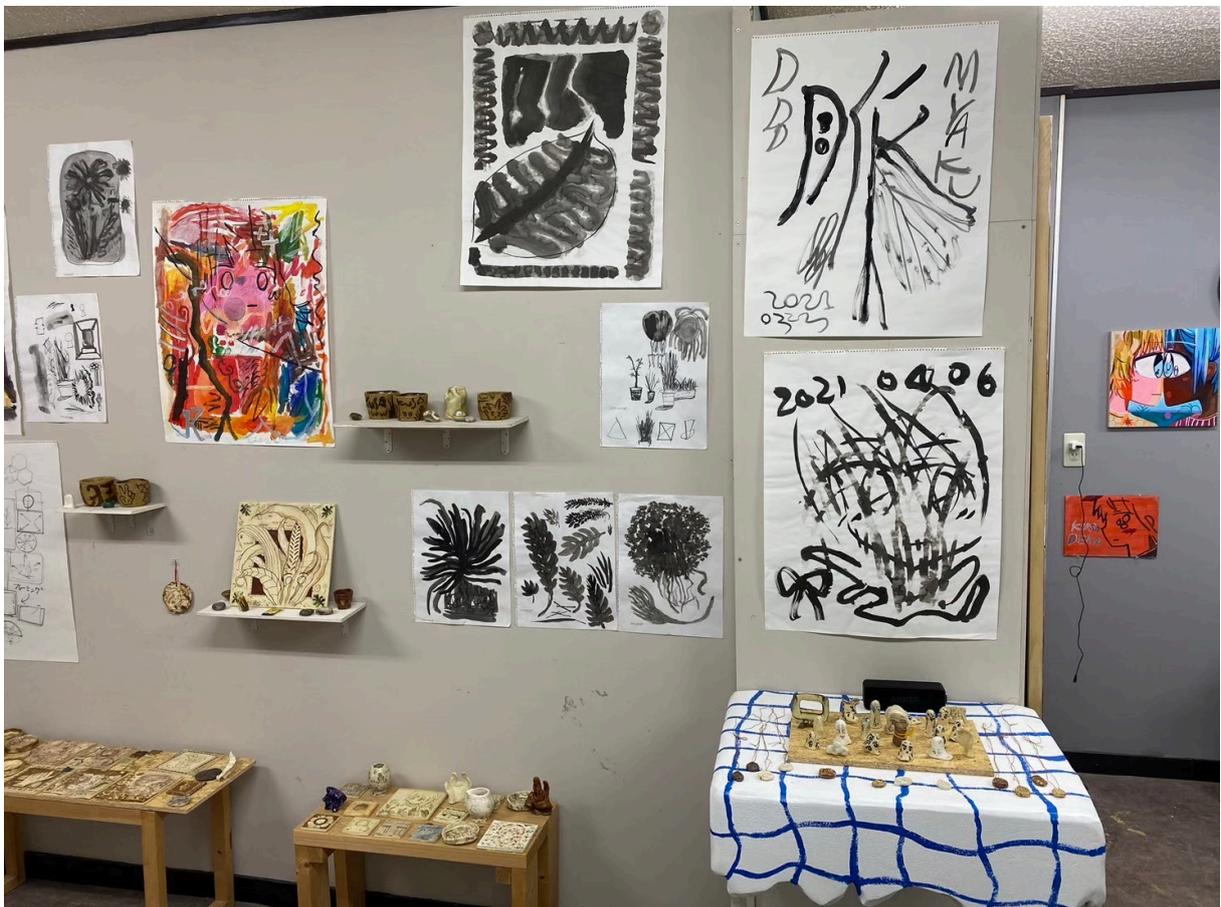


©koshinkyoku exhibition 06©

藤城嘘 「LOOSELEAF ルーズリーフ」

作家名	藤城嘘 Uso Fujishiro
展示期間	2022/12/9～11,16～18
ステートメント	<p>ルーズ…ゆったりしていて、ゆとりのある、ゆるいさま。 解き放たれて、自由で、バラバラの。 リーフ…木や草の葉、そして紙片の一葉のこと。</p> <p>「ルーズリーフ」は一枚ずつが固定されていない、入れ替え可能なノートの意味をもちます。しかし単語に分解してそのまま訳してみると、「だらしない」「葉」といったところでしょうか。序列から開放されフレキシブルとなる情報の束。そこに植物の葉を連想する名前を重ねることを面白く思い、タイトルにしました。</p> <p>2020年から私は、グロテスク文様・植物文様を中心とした装飾文様への関心、また園芸文化への関心を制作に反映してきました。前々より「植物とキャラクターの共通性」が唱えられないか、という漠然とした考えを抱いていたのですが、グロテスク文様を見直したとき、そこでは生き物と記号が「生えてくる」かのようなエネルギーを感じさせる、生命力の表現」によってまとめられており、腑に落ちたところがあったのです。</p> <p>また、いわゆる「コロナ禍」のなか、身体や肉体について考えることもありました。美術の普遍的なモチーフとしての「手指」を描いてみたりするうち、そのフォルムにニョキニョキと枝分かれましたかたちを見出しました(当たり前の話ではありますが)。樹状に枝分かれました形へエネルギーが流れるとき、それは「脈」という言葉で表されます。水脈、葉脈、血脈など、「脈」のつく単語にはエネルギーの流れが付随します。</p> <p>このような経緯から、この2年の制作を振り返ると、枝分かれし脈をつくるイメージと、外へ外へ伸びていく文様のイメージがたくさん登場します。今回は、2020年のパンデミック以後から現在までの、色々な思考や状況の中でのゆるりとした絵を一同に並べた展示となります。ごゆっくりお楽しみください。</p>





藤城隆 個展
 LOOSELEAF
 ルーズリーフ
 WORKS FROM
 2020 to 2022
 2022.12.9-10-11
 16-17-18
 FRI SAT SUN
 OPEN 13:00
 -20:00



LOOSE LEAF ルーズリーフ

「LOOSE LEAF」は、藤城隆の2020年から2022年までの作品を展示する。この展覧会では、彼の多岐にわたる表現手法や、自然と人間の関係性を探る作品が紹介される。また、彼の創作活動の軌跡や、今後の展望についても詳しく解説する。

藤城隆は、1980年代後半に東京で生まれ、多岐にわたる表現手法で活動している。彼の作品は、自然と人間の関係性を探るだけでなく、社会や文化に対する批判的な視点も示している。また、彼の創作活動は、多岐にわたるメディアや技法を用いて行われており、その多岐にわたる表現手法は、彼の作品の魅力を高める要因となっている。

「LOOSE LEAF」は、藤城隆の2020年から2022年までの作品を展示する。この展覧会では、彼の多岐にわたる表現手法や、自然と人間の関係性を探る作品が紹介される。また、彼の創作活動の軌跡や、今後の展望についても詳しく解説する。



